

来る、時々吉井校長からずいぶん小言を食ったものだ。熱心ほどおそろしいものはない。御土佐伯の野球が東九州に覇をとるゑるそのもの動機はここに芽ぐんだ。それから松舞台の阿南君も野村君がこれにへびをかけて大成したことは勿論である。

もう一つ面白かつたのは、その時分に郡主催の應賞出品展であつた。学校からは私が主となつて、教員園と児童博物室を出品した。両方とも例によつて私と児童との合作、無論外に先生方も材料を提供されたように記憶するが、今から考へても左程完全な研究と遂げたものではなかつたと思ふ。教員園も博物室も出品規程に融れるとかで体よく送からも水そうであつたが、とうとう横車を押しして審査委員諸氏を引張つて来て当選の中に入れてもらった。よくも固々しく頑張つたものである。思い出しては微笑を禁じ得ないが、それと近に入らぬは何時でも強住するといふ腰があつた。高が若い訓導一人が郡に出去いといふと、郡長自身が引留め役に出るといふ時代であつた。

研究

耕地整理記念碑

— 稲作農業の姿をたがねて —

会員 山 本 保

農林省大分統計調査事務所は、この秋收穫を前に次のような稲作状況を發表しました。

「県下の水稲は史上最高の大豊作の見込み——作付面積が減つてゐるのに豊作をつたは、栽培技

術の向上で反当左りの收穫がふえ、また気象条件がよかつた。——」
この水稲栽培に関連して、耕地整理碑について考察を試みたいと存じます。

一、佐伯市久部(旧上堅田村)の藤崎公園(堤公園)に日、明治四十四年一月二十日建立の耕地整理記念碑があります。(詳細省略)

二、佐伯市谷川部落(旧青山村)の谷川橋のたもとに、次のような記念碑が建てられています。

(表面文字)

井田記念碑

(上部に、右より横書き)

方今、耕地、整理益々切要ナルモ、之ニ着手スル者皆肥沃坦平ノ地ニ止マレリ。

青山村ノ地質峻峭、宇谷川ノ如キハ傾斜瘠土ニシテ、灌溉至難ナレバ、古来零作ニ了セシコト多キモ、井田ノ拳ハ、新ジテ不可能トセリ。

而シテ染矢勘太郎君独リ以テ可能ト為シ、明治四十年独力之ヲ本字旁中ノ劣地一房ニ試ミ、自給自役以テ理想ノ成績ヲ拳ゲタリ。

爾来、灌水至便收穫亦極メテ多ク、宇民以テ奇蹟トナス。

大正元年、君進テ公許ヲ受ケ、子民ヲ督励シテ、全部整理ノエヲ起シ以テ其一郡ヲ成功シ、

同三年又起エシテ阡陌井然、竟ニ今日ノ大成ヲ就シ以テ四郡歩余ノ新穰田ヲ得タリ。

嗚呼、君が経営ノ効ハ新ニ帝國ノ田積ヲ加ヘタル者外謂フベシ。蓋シ本字ノ如キ地形ノ井田ハ、之ヲ以テ高

大正五年十月、字民深ク之ヲ徳トシ、茲ニ其功ヲ頌
シテ無窮ニ伝フト云爾。

(左側面文字)

大正五年十月

茶 政治部 撰並題字
重田 亮書

指導員 小野崎 繁 蔵
村長 野々下 道太郎
組長 添天 勘太郎
副組長 山口 万十郎
評議員 井野上 由太郎
添矢 弁 蔵
井野上 長 吉
山口 久 八

石工 山口 久 七
井野上 由 太郎
書記 添矢 紋 八 郎

(右側面文字)

(語句注)

- ① 方今 (現在)
- ② 硤礪 (石が多い土地)
- ③ 灌漑 (水路をつくつて田圃に必要な水を引き、土地をうるおすこと)
- ④ 公井 (官公庁の免許)
- ⑤ 井底 (底画が正しく整つてゐるようす)
- ⑥ 穰田 (新しく実る田)
- ⑦ 壇夷 (平壇)
- ⑧ 瘠土 (やせた土地)
- ⑨ 井陌 (井の間道)
- ⑩ 就 (し、なすとける)
- ⑪ 嚆矢 (事の始め)

◎ 当時佐伯中学校長

◎ 当時佐伯中学校教師

◎ 後年青山社長

三、佐伯市泥谷公民館前(旧下堅田村)に、次の記念碑
が横たわつてゐます。——以前は下堅田小学校の校門
の前は建てられてゐました。

(表面文字)

耕地整理碑 (碑面上部 右横書)

土ニ生キ、土ニ育ツ。實ニヤ大地ハ人生ノ母、其ノ
地ヲ愛シ其ノ土ニ親シム。是レ農村ノ生命ナリ。吾等
土元小堤血身^{ヒツク}到^キ地ニ点在シ、加フルニ不毛ノ水田池沼
多ク、耕地ノ不利、豪雨ノ被害甚大ナルモノアリキ。
之ガ救済厚生ノ道、独リ耕地整理ナルノミ。予子之ノ
識ヲ起ス年既ニ久シ。
サレド事ヲ成ス、素ヨリ大ナル試練ヲ期セザルベカ
ラズ。其ノ間種々ナル困難、幾多ノ蹉跌続出シ、為メ
ニ荏苒^{シヅカ}再^ヒ歳月ヲ曠^スス。
新クニシテ大正九年冬、第一期工事ニ着手シ、翌春
功ヲ竣ヘ、次イデ十三年更ニ第二期ノ工ヲ起シ、翌五
月、茲ニ全ク宿年ノ懸案ヲ完成スルヲ得タリ。
回顧スレバ夢ノ如シ。茲々タル大数ノ昔ハ、霜日ヤ
晨旦、林ヲ破リ、風寒キ夕陽ノ影ヲ追ヒ、衆情相識メ
相勸マシ、協力一致以テ大成ヲ期セリ。見ヨ、垣々
ル^ル経路ハ、縦横ニ井然、縱横タル車馬亦自由自在、灌漑
溢レ、運輸ニ交通ニ、將運風ニ採光ニ、實ニ理想的施
設ハ完備ス。成シタル一事ノミ。
然リト云モ、其ノ間得タル教訓ハ多大ナリ。地ヲ増
シ使テ得タルハ固ヨリ、協同ノ美俗、勤勞ノ良風、延
イテハ他部落ヲ化シ、進ンデ村治ニ及ボシ、其ノ成果
幾阿ナルヲ知ラズ。汗人ノ和ハ地ノ利ヲ併セ、天ノ時

ニ適ヒ、今ヤ一望千里、百穀能ク穰リ、望民ハ朴魯敷
腹ニ醉フ。

誰カ旧ヲ想ヒ、新ヲ思フ時、今昔ノ感ナカラシヤ。
茲ニ碑ヲ建テ、誌シテ以テ記念トス。
大正十五年五月建之

田 中 和 佑 撰
松 尾 角 藏 書

(語句注)

- ① 丘阜 (岡)
- ② 曠ス (荒やす)
- ③ 藜々 (藪々)
- ④ 経畛 (あぜ道)
- ⑤ 荻苒 (しだいに)
- ⑥ 大正十四年北月
- ⑦ 晨旦 (朝)
- ⑧ 擬職 (中かきしる)
- ⑨ 田八橋村戸次ノ人、佐伯高等女学校教諭

四、弥生野役場の前庭に次の碑が建立されています。

(田上野井)

(表面文字)

耕地整理記念碑

昭和十二年二月、時ノ村長工藤嘉吉以下村内有識者
發起人トナリ、上野村耕地整理組合ヲ設立シ、本村七
十余町ノ水田ニ灌溉スル鬼ヶ瀬井路中大字山梨子字四
反田ヨリ大宮井河字留田前ニ至ル幹線水路千三百五十
余間ノ大改修ヲ計画シ、総工費六万余圓ヲ費シ完成ヲ
見タリ。

従来、僅カノ旱魃ニモ用水不足ヲ告ゲ、稲作ノ減收
ヲ見タリシガ、此大改修工事完成ニヨリ、其心配ナキ
ニ至レリ。又一面、田七十町三反歩、畑四町歩ノ区画
整理ヲ断行シテ、関係村民ノ耕作上ノ便益ト生産増強

ニ資シ、何レモ昭和十三年三月末之ケ完成ヲ告ゲタリ。
而シテ区画整理ノ経費ハ、関係地区毎ニ之ヲ負担ス。又
支線水路ノ関係地区毎ニ之ヲ施行シ、経費ハ其地区
ニテ負担セリ。右工事ハ、昭和十六年十月完成シテ後
残務完了ノ上、昭和十九年二月組合ヲ解散セリ。

顧フニ此大工事完成ニヨリ、関係村民ノ享受スル利
益ハ、蓋シ甚大ニシテ、村民等シテ組合長以下役員諸
氏ノ功績ニ対シ、賞讃惜ケラザルモ宜ナリト云フベシ。
茲ニ於テ、組合長以下役員ノ功績ヲ表彰スルト共ニ、
此ノ大工事ノ完成ヲ後束ニ遺サントシ、時ノ村長小野
宗佑、談話議長児玉愨策、其他有志相謀リ、記念碑ヲ
建設スルモノナリ。

(背面文字)

昭和二十八年十月一日 建設

五、佐伯市西野区(田下堅田村)地蔵本の三叉路に、次
ノ碑が供養塔と並んで建てられています。

(表面文字)

耕地整理記念碑 (上部に右横書)

当部農民常に平和的信念堅く、御土ヲ愛シ、勤勞精
神を以テ一貫シ、國土ヲ愛シ土に親シ農民たり。

茲に耕地整理事業と起し、土地交換分合、地目変換
区画整理、客土搬入、道路畦畔溝渠等廢置変更、之に
伴フ灌溉排水設備即ち用水路を整理し、稲作期間必要
ノ用水ヲ過不足なく、全地に導き得る如く改め、或は
機械力に依リ所要ノ水量ヲ揚水すべし方途をも講じ、
又錯雜高低異なる耕地地盤ノ盛上切下、或は区画と適当

に拡大し、畦畔其他不生産部分と生産力に富める耕地に変更、地籍の経済を計ると共に耕作上の便利を計り、或は道路を配置し、耕作及運搬上の利便と共に人家と耕地との連絡を保ち、牽馬の引入を自由ならしむる如く、交通運搬上の至便を得たり。

又、小堤丘阜点在せる土の、或は不毛の水田池沼、或は悪水停滞被害ある箇所、夫々適当に更生改良を加へる等、総て農業上の利用増進に精尽したり。

殊に長とら堤防(堅田川堤防)決壊による甚だ原方面耕地流入の砂礫約四千七百立坪之水を山の下地区に運搬、水田耕土を極上、砂利を埋込、耕土と砂利とを天地返しを行い、以て一大難工たる荒地復旧工事を加へ、最善を尽し全地区総合的に整理事業を完成し、一望千里坦々たる豊穰田園を見るに至れり。

実に整理事業の如き、祖先伝来利用完全に行なわれ、かりし土地の形態を改造一変し、地力を増進せしめ、將來農事改良上根本事業にして、茲に農業の新紀元を開くと称するも可なり。

農業者の四特管々として玉すす汗を拭き散す、朝に星と戴き、夕に月を光を浴びて帰る土の、只是一粒の穀粒をも尚多かれと祈り外ならず。完成耕地の現況は、以上望むが如き生産をなし得るに適當なりと認む。後人夫れ能く水路其他工作の増補修理と勤勉努力とを以て之が万全に処理されんことを希求す。 謹白

昭和十九年四月一日起工
昭和二十一年八月十日完了

西野耕地整理組合

(裏面文字)

組合長 足田慶次郎 以下組合役員、組合員、正長等の方々の名前が刻みこまれています。

六、弥生町切畑小学校(旧切畑村)の校庭に次のような記念碑が立ちます。(詳細省略)

(正面文字)

常盤井路耕地整理記念碑

昭和二十四年建立

以上段落、句讀点、読みかた、語句注は右左の如し、右の三つの譯文を味読いたしませう。先達者の努力で、果南の村々は富裕になつて今日に至つています。右左は先人の遺業を充分感ひませう。

(注) 水利事業年表

年 号	事 項
明治二十三年	小田井堰大修理
〃 四十四年	上野田村久部耕地整理(第一期明治四十四年、四百五十日、三十九日九度部)
大正 五年	青山村谷川耕地整理(第一期明治四十四年、第二期大正元年、第三期大正三年、四年度)
〃 十四年	下野田村能谷耕地整理(第一期大正九年、第二期大正十三年)
昭和十六年	上野村耕地整理(昭和十二年惣分瀬井路大改修、二三三、間、工費六万四、区画整理田七十町三及步、畑四町步、昭和十六年支線水路改修、工費地区負担)
昭和二十一年	下野田村西野耕地整理完了
昭和二十三年	切畑村常盤井路耕地整理、水路改修(昭和八年工事完成、昭和十九年東進新費区画整理、工費三十三万四)

昭和三十三年	小田井堰水路大改修（工期四年三月、工費千三百八拾四万円、水路延長四千四百十三メートル）
昭和三十九年	小田頭首工改築（工期十ヶ月、工費五千六百七拾叁万円、二百五メートル）

昭和二十二年 五百三メートル水路隧道開削、
工費百九拾四万円

あとがき

大分県における稲の作付面積は、昭和三十七年をピークにして減少の方向へたどりつてあります。

大分市の昭和水路建設などで昭和三十七年までふえ続け、昭和三十九年度は、水稲五万三千八百ヘクタール、陸稲二千七百七十ヘクタールの作付面積でした。然し現在水稲五万二千八百ヘクタール（千ヘクタール減少）、陸稲二千四百十ヘクタール（三百六十ヘクタール減少）になっています。

減少の理由としては、水稲の場合、
1. 都市部を中心に工場敷地や空地、道路化が進んでいる。
2. 山間部では生産性が低いこと、労力不足が加わり、山林化が進んでいる。

このため県下では、大野、直入郡を中心に開田が進んでいるものの、廢田面積が開田面積を上回っています。ことしの七島イは需要増と昨年の価格高で支えられ、農家の意欲もまし、水稲の作付減少の一因にもなっていますともいわれています。

また、陸稲の作付面積も、昭和四十一年には一時ふえましたが、干害とうけやすい、収量が不安定、味が劣るなどが減少の原因になっています。

一方、総合農政の進め方について、農政審議会の答申

が次のように提出されました。

1. コメ作りの転換や休耕に奨励金を出し、公的機関による農地買上げなどで生産抑制をはかる。
 2. 補助金を出して生産者米価を引下げる。
 3. 米価据置きを以て買入れを制限する。
- 以上、コメ過剰対策について三案が示されています。

そしてこれらの生産調整は、農民と農業団体の自主的な動きに期待がかけられています。

この答申を受けた政府と与党（自由民主党）は、この「自主調整」を最大限に生かした新農政を立案する必要に迫られています。そこには、あつた方は、日本農業のきびしい情勢を予想することかできます。

大分県では、農業技術センターを宇佐市や三重所に新しくつくったり、農業後継者養成のための農業実践大学校をその中に設けたりしました。また、久住、飯田高原の調査を計画して、広大な未利用地を活用し、理想的な農業を築きあげようと努力しています。

新聞紙上で、安心院ブドウ園地の状況や、日田郡大山村のウメ、フリを植えてハワイへという記事などをよく見受けられます。

佐伯市農政も常農改善五年計画を立て、農家の所得倍増を目ざしています。柑橘栽培（三〇〇ヘクタール）、野菜ハウスカボチャ（八〇ヘクタール）、肉牛（三六〇頭）、肉豚（四二〇頭）などの生産増大計画を立てています。

井堰、林地整理、栽培技術などに取り組んで、稲作の増産拡大を図った先人の業績をふりかえり、わたしたちはこの協同の精神を生かして、今後総合農政振興に励進したいものです。

さいごに、大分県東国東郡武蔵町在住の詩人鹿口武士

先生の隨筆を左に掲げて擧筆します。

ことしは例にないほどの豊年である。これは農民の祈りにも似た真剣な肥培管理の賜物であるが、また太平の世であり、五風十雨に恵まれ左からである。晩秋のおからひく日の下に、自分のみのり力重きをききえかねて倒れ伏している稲の様は、まことに豊年らしい。まさに金風さつさつへ颯々への感である。

しかし、豊年祭をしようという声も聞かない。古々米があつて家畜の飼料にするという話もある。なんぞか樂しみやすい農業である。もはや農業も一國の内事情を以て処理できない複雑な事情が加わつてきていふようだ。わか國の農業の發展のために、よい方策が生み代てきてもらいたいものだ。

(十一月二十三日(勤勞感謝の日)夜記す)

研究

井ノ上部落の古文書

検地高帳、地価取調帳など

会員 久々宮

永

(南海郡水正井大字井ノ上本正村文化財調査委員)

二百年百粒炭子以炭子にて今に田地以後継がねき

反当り一石三斗の年貢高 検地帳には記るされありぬ

本正村大字井ノ上には、区長が代々受け継いでいる帳極といふものがあります。先日現区長の川野重三さんが不圖したことから其の帳極の底から、数点の古文書を答

見しました。川野区長さん其のような本もの理解の方でしたので、直ぐに私に連絡してくれましたので、早速調査におたりました。

さて其の数冊の古文書を年代順に申しますと、

一、正徳四年 田畑内検地高帳 三冊

二、嘉永三年 前高津留御成田御検地高帳 二冊

三、明治八年 地価取調帳 一

四、明治十六年 地租民費取立帳 一

でありました。以下私の調べ整理した一部を掲げ、先輩諸賢に今後の御指導を希う次第です。

焼畑も打替畑も耕地にて山下々は三斗の年貢米高

正徳四年(一七二四年)の検地高帳は、現在土地台帳に

相当する田畑別の二冊と、名寄票にあたる一冊の三部分

ら成つています。

(表紙)

正徳四年甲午年五月晦日

因尾村組之内 井野上村 田方内検地高帳

佐久間儀右衛門

西名 兵古衛門

高瀬 藤兵衛

紙数合式拾枚前後上紙共ニ

(第一頁)

因尾村田方内検地高帳

井野上 中

中での善治郎名受

一、中 老敵式拾九歩 高式斗志井六合三勺三戈

理 八 作

同前 清右工門名受